

学校だより 2月号

市田っ子

平成31年1月28日発行
熊谷市立市田小学校

花と笑顔とあいさつ いっぱいの学校

市田小HP <http://www.ichida.ed.jp/>

寒さに負けない市田っ子 ～麦のようにたくましく～

校長 山田 明

2月3日（日）は節分、翌4日（月）は立春となります。まだまだ寒い日が続くと思いますが、「光の春」が一足早くやってきます。

さて、本校の周りには田んぼが広がっています。去年の秋にはどの田んぼにも見事な稲穂を実らせていたのが思い出されます。その中で、よく見ると小さな芽が並んでいる田んぼが目にとまります。その小さな芽は、夜には氷点下になる寒さ、時には人も飛ばされそうになる強風にも負けずに、田んぼにしっかり根をはっています。麦の芽です。

私は「麦秋」という言葉が大好きで、毎年、6月ごろに黄金色に染まった麦畑に心を躍らせています。麦は、秋に種から芽を出し、冬は厳しい寒さに耐え、その間麦踏みを経ながら、春の到来を待ち、春の到来を待っていたかのように、芽をぐんぐん伸ばし、麦穂を実らせ、初夏の「麦秋」を迎えます。

4月から、中学生となる6年生、同じく4月からは学年が一つずつ上がる1年生から5年生の子供たちの様子が、冬の厳しさに耐え、春からの成長を待っている麦の小さな芽と重なってきます。

市田小での学校生活の中で、あいさつや返事など当たり前のことが当たり前にできるようになること、学習面では、読み書き、計算など基礎的学力に加え、自分の考えをまとめ、発表できる力などが、これから大きな実りになって、子供たちをより一層たくましく成長させてくれます。

今年度も残すところわずかとなりました。1年生から6年生の市田っ子全員が、麦のようにたくましく、また、この後大きな実りを得られるよう、保護者、地域の皆様とともに、子供たち一人一人を見守り、育んでまいりますので、ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

生活目標について



2月学校生活目標

・チャイムの合図を守ろう。
・係や当番の仕事をつかりやろう。



きそく正しい生活をしよう



「あたり前のことをあたり前に行う」

4月から全校で取り組んできました。一見簡単そうに見えますが、これを継続するとなると、なかなか難しいものです。

「あいさつ」「返事」「そうじ」「廊下歩行」「宿題」…等学校生活の中には、あたり前のことをあたり前に継続しなくてはならないことがたくさんあります。小さなことの積み重ねです。それはやがて自信につながり、大きな力となります。

2月の生活目標「規則正しい生活」についても、学校生活では「あたり前」のことです。本校の児童が、あたり前のことをあたり前にできないということではありません。むしろいろいろな場面で力を発揮しています。明るい挨拶や返事もでき、チャレンジ精神もあります。しかし、これですべていいという訳ではありません。ですから、もう一度「あたり前」について考え、自分を見直し、より高い「あたり前をあたり前に行うこと」を目指していきたいと思っています。

2月の行事予定

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	お話会（5・6年生） くまなびスクール
5	火	なわとび大会① 委員会活動
6	水	縦割り活動
7	木	来年の1年生と遊ぶ会（1年生）
8	金	市田小学校入学説明会
9	土	親子読書の日
10	日	親子読書の日
11	月	建国記念の日
12	火	なわとび大会② クラブ活動（3年生クラブ見学）
13	水	
14	木	避難訓練（地震）
15	金	授業参観日（訥年）・子供安全見守り講座 6年学年PTA活動
16	土	
17	日	
18	月	お話会（1・2年生）
19	火	クラブ活動
20	水	第4回学校運営協議会 縦割り活動
21	木	
22	金	授業参観日（低学年・ひ組）・PTA理事会
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	クラブ活動（最終日）
27	水	生活目標集会 音楽集会
28	木	

学校生活レポート



【1/9 書きぞめ制会・練習の成果を発揮しました】



【1/18 5年学年PTA活動～もちつき～】

JFA こころのプロジェクト ～5年生～

☆1/15(火)に、元体操日本代表選手上村美揮さんが夢先生として来校されてました。そして、5年生が、上村先生の夢の授業を受けました。

これは、日本サッカー協会の事業です。Jリーガー等、日本代表として活躍している新旧スポーツ選手が「夢先生」として教壇に立ち、「フェアプレー精神」や「夢を持つことの素晴らしさ」、「それに向かって努力することの大切さ」、「失敗や挫折に負けない心の強さ」を子供たちに伝えていきます。

市田小の5年生も、夢先生とともに「夢」について考え、スポーツの素晴らしさや夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを学ぶことができました。

「間」を大切にする

子供たちの生活から「時間」、「空間」、「仲間」という3つの「間」が減少したと言われて久しいですが、社会を取り巻く環境は止まるところを知らず、変化を加速させていく様子です。3つの「間」の減少は、体力向上にも社会性やコミュニケーション能力の育成等にも影響を与えていると指摘されています。

「間」を用いる言葉に、居間、間合い、間を見計らう、話の間等ありますが、適度な時間や場、距離が大切なことが分かります。間がいい人は、きっとタイミングがよい人のことだろうと推察します。相手の話の間に相槌を打ったり、一方通行ではなく、考え、応答する時間をとったりする心配りというアシストが巧みなのだと感じます。時には、少し距離を置き見守りつつも、頃合いを見計らって手助けをしたりする我慢や勇気もポイントだと思います。

これらは、正に、教育的働きかけと重なります。学校の重要な役割である「仲間とかかわる経験」を大切に、間合いのいい教育活動の推進に努めてまいります。

